

一 敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ外哨兵ニ對シ哨令ヲ犯シタル者亦前項ニ同シ

本條ハ哨兵ヲ欺キテ哨所ヲ通過シ又ハ哨兵ノ制止ニ背キタル者ニ關スル規定ナリ

哨兵ニ關シテハ既ニ説明セル所ナルヲ以テ茲ニ再ビ論ゼザルモ哨

兵ハ哨所ヲ守衛スベキ任務ヲ有スルモニシテ哨所ヲ通過セシム可キ者ハ一定ノ人ニ限ラル、モノニシテ其以外ノ者ハ通過スルコトヲ得ザルノミナラズ哨兵タル者之レヲ通過セシム可ラズ之等總テ哨令ニ依リテ定ムル所ナルヲ以テ茲ニ詳細論ズルコトヲ要セザルモ一言附記スレバ一定ノ服裝ヲナシタル者又ハ哨兵ノ誰何ヲ受ケテ通過ヲ許サレタル者ハ哨所ヲ通過スルコトヲ得然ルニ此等ノ者ニアラザル者哨兵ヲ欺キテ錯誤ニ陥ラシメ以テ哨所ヲ通過シタル者又ハ哨兵ノ制止アルニ拘ラズ之ニ背キタル者ハ軍紀ノ維持上寛容スヘキモノニアラズ此等ノ罪ヲ犯ス場合敵前ナルト軍中又ハ戒嚴地境ナルト又其他ノ場合ナルトニ依リテ其及ボス害ノ程度大ニ異ナルヲ以テ此三ツノ場合ヲ別チテ刑ヲ異ニス本條第一號第二號第

三號ニ就テ見ル可シ

前項ハ哨兵ヲ欺キテ哨所ヲ通過シ又ハ哨兵ノ制止ニ從ハザル場合ニ關スルナリ第二項ニ於テハ哨令ヲ犯シタル者ニ對シテモ亦前項同様ノ處罰ヲ受ク

茲ニ哨令ト云フハ哨兵ノ遵守スベキ哨所ノ規則ヲ云フモノニシテ哨兵ノ任務ハ一ニ之ニ從ハザル可ラズ然ルニ哨令ニハ哨所ヲ通過スル者ニ對シテハ誰何ヲナス可キ旨ヲ規定セルニ拘ラズ哨所ノ規則ヲ犯シ哨所ヲ通過スルガ如キハ哨令違反ト云フベシ

第九十六條

在郷軍人故ナク召集ノ期限ニ後レタル

トキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受ケタル場

合ニ於テ五日ヲ過ギタル者ハ二年以下ノ禁

錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過ギタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ在郷軍人ニシテ召集ノ期日ニ後レタル場合ニ關スル規定ナリ在郷軍人ノ如何ナル者ナルヤハ總則編ニ於テ説明セルルヲ以テ參照スベシ

在郷軍人ハ戰時事變ノ場合又ハ平時ニ召集セララル、コトアリ戰時事變ノ場合ニ於ケル召集即チ充員召集ハ其主ナルモノニシテ補充召集臨時召集等アリ平時ニアリテハ勤務演習召集、教育召集等ニシテ召集ヲ受ケタル者ハ絶對的之ニ應ゼザル可カラズ然レドモ何レ

ノ場合ニ於テモ疾病其他已ムヲ得ザル事由アル時ハ其義務ヲ免カ
ル、モノナリ若シ正當ノ事由ナクシテ召集ニ應ゼザルトキハ之レ
ガ制裁ヲ受クベキハ當然ナリ左ノ區別ニヨリテ處斷セラル

- 一 戰時事變ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處セラルベシ平時ノ場
合ニ比シ刑ヲ加重シタルハ戰時事變ニ際シテハ兵員ヲ要求スル
コト急ニシテ平時ト其狀態異ナルヲ以テ嚴刑ヲ科シテ以テ之レ
ヲ防止セザル可ラズ戰時ニ在リテハ召集期日五日ヲ經ルニヨリ
テ罪トナリ平時ニ在リテハ十日ヲ經過スルニヨリテ罪トナル此
期日ニ差異ヲ認メタル如キモ亦戰時ハ急ヲ要スルヲ以テナリ
- 二 戰時以外ノ場合ニ於テハ十日ヲ經過シタルニヨリテ罪トナル
此期間ノ計算ニ付テハ前既ニ説明シタル計算法ニヨリテ算定ス

召集ヲ受ケタル軍人十日又ハ五日ヲ過ギテ應召スルモ其者ニシテ
正當ノ事由アルコトヲ證明シタルトキハ本罪ヲ以テ處斷セラル、
コトナシ其如何ナル證明ヲ要スルカ詳細ハ召集條例服役條例ニ於
テ規定セラル、モノニシテ一旦在郷軍人トナリタル者ハ詳知スベ
キ所ナリ

第九十七條 兵役ヲ免ル、目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ
身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三
年以下ノ懲役ニ處ス
在郷軍人召集ヲ免カル、目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ
ナシタルトキ亦前項ニ同シ

本條ハ徵兵忌避ニ關スル罪ヲ規定セリ本條ノ罪ハ從來普通刑法ニ

之ヲ規定セル所ナリシモ改正普通刑法ニ於テハ他ノ特別法令ニ讓ルコト、シ之ヲ削除セルヲ以テ本法ニ之レガ規定ヲ設ケタリ
 兵役ニ服スルノ權利ハ公權ナリ之ニ服スルハ公務ニ服スルモノナリ故ニ何人ト雖モ帝國臣民タル者ハ滿十七歲以上滿四十歲迄ノ者ハ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス徵兵令第一條ニ於テハ日本臣民ニシテ滿十七歲ヨリ滿四十歲マデノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス規定セルヲ以テモ明ナリ
 兵役ヲ免ル、目的ヲ以テトハ兵役ニ就クコトヲ免カレントスルコトヲ云フモノニシテ疾病ヲ作爲シトハ故ラニ毒物等ヲ飲用シテ疾病者トナルモノヲ云ヒ身體ヲ毀傷シトハ兵役ヲ免カル、ノ目的ヲ以テ指ヲ斷チ足ヲ切リ其他身體ニ傷害ヲ生ゼシムルガ如キヲ云フ

モノニシテ其他詐僞ノ所爲ヲ爲シタルトハ自己ガ兵役ニ就クコトヲ欲セズシテ多額ノ賄賂ヲ贈リテ他人ヲ代人トシテ兵役ニ就カシムルガ如キヲ云フモノナリ斯クノ如キ所爲ヲナシタルモノハ三年以下ノ徵役ニ處セラルベシ
 在郷軍人ニシテ召集ヲ免ガル、目的ヲ以テ前項ニ掲グル所爲ヲナシタルトキハ又前項ト同様ニ三年以下ノ懲役ニ處セラルベシ

第九十八條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ軍事ニ關スル虚偽ノ命令、通報又ハ報告ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ軍事ニ關スル虚偽ノ命令、通報又ハ報告ヲ爲シタル者ヲ處罰スル規定ナリ

戰時、軍中戒嚴地境ノ場合ニ於テハ前ニ説明セル如ク命令通報ノ如キハ最モ重要ナル事項ニシテ一軍ノ安危之ニ依リテ分ル、コト多シ故ニ命令、通報、報告ハ正確ナルコトヲ欲スルナリ又正確ナラザル可ラズ然ルニ虚偽ノ命令、通報、報告即チ眞實ニアラザル假裝ノ命令、通報、報告ヲナスガ如キハ軍人タルノ本分ヲ盡サル者ニシテ決シテ寛容ス可キモノニアラズ茲ニ於テカ本條ハ右ノ所爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ五年以下ノ懲役ヲ科シテ以テ之レヲ防止スルニ在リ」犯人ノ目的敵ヲ利スル爲メニ本條ニ掲ゲタル所爲ヲ爲シタルトキハ第二十八條第六號ニ依リテ處罰セラル可シ

第九十九條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關ス造言、飛語ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言、飛語ヲナシタル者ニ關スル規定ナリ

斯クノ如キ場合ニ軍事ニ關シ造言、飛語ヲナスハ前條ニ説明スルガ如ク軍事上甚ダ重要ナル事項ニシテ一軍ノ安危ニ關スルモノナルヲ以テ之レヲ處罰セザル可ラズ依テ斯クノ如キ所爲ヲナセル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス若シ犯人敵ヲ利スルノ目的ヲ以テ本條ノ所爲ヲナシタルトキハ第二十八條第七號ニ依リテ死刑ニ處セラルベシ

造言、飛語トハ第二十八條ニ於テ説明セルヲ以テ參照ス可シ戰時事變モ亦總則編ニ説明ス

第一百條 禮砲、號砲其ノ他空砲ヲ發スベキ場合ニ於テ

彈丸瓦石其ノ他ノ物ヲ裝填シテ發シタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ空砲ヲ發ス可キ場合ニ彈丸石瓦其他ノ物ヲ裝填シテ發シタル者ヲ罪スル規定ナリ

禮砲トハ祝日祭日等ニ於テ祝意ヲ表スル爲メニ發砲スル場合ヲ云フモノニシテ號砲トハ衛戍地ニ於テ正午ニ發砲スル場合等ヲ云フモノナリ此等發砲ノ爲メニ使用スル火藥ハ一定ノ規則ニ從フ可キモノナリ普通一定量ノ火藥ノミヲ使用シテ彈丸ヲ使用スルコトナシ然ルニ彈丸ヲ裝填シ又ハ瓦石其他ノ物即チ木片竹切等ヲ裝填シ發砲スルガ如キコトアルトキハ砲腔内ニ破損ヲ生ズルコトアル可ク又危險實ニ云フ可ラズ殊ニ禮砲號砲ノ如キハ市街ニ接近セル場

所ニ於テスルモノナルヲ以テ嚴重ニ之レヲ禁止セザル可ラズ故ニ之シテ犯シタルモノアルトキハ二年以下ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ
其他空砲ヲ發スベキ場合トハ主モニ行軍演習等ノ場合ヲ云フモノニシテ此等ノ場合ニ於テハ往々此種ノ罪行ハレ難シトセズ依テ之ヲ犯シタル者ニハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第一百一條 哨兵又ハ衛兵故ナク銃砲ヲ發シタルトキ
ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

哨兵ノ如キハ戰時ニ在リテ最前線ニ在リ敵ヲ警戒シテ以テ後方部隊ノ安靜ヲ保持スルノ任ヲ有スルモノナルヲ以テ其任務甚ダ大ナリ故ヲ以テ哨兵ハ一定ノ場合ニアラザレバ銃砲ヲ發スルコトヲ得ザル可シ哨兵銃砲ヲ發スルトキハ敵ノ襲撃アルモノトシテ本隊ヲ

動騷セシメ又敵ヲシテ我部隊ノ所在ヲ知ラシムルニ至ルモノナルヲ以テ故ナク哨兵衛兵ガ銃砲ヲ發スルガ如キコトハラバ軍紀ノ維持上之レヲ處罰セザル可ラズ依テ本條ハ哨兵衛兵故ナク銃砲ヲ發シタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百二條 戰時軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ急呼號ノ報アリタル場合ニ故ナク來會セザル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ戰時軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ急呼ノ號報アリタル場合ニ故ナク來會セザル者ニ關スル規定ナリ
戰時軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテハ各隊又ハ各兵其任務ノ種類ニヨリテ或ハ離隔シ或ハ接近シ或ハ一時散解シ又ハ集合スル等目的ノ

如何ニ依リテ指揮官ノ四肢五體ノ如ク其意ニ從テ活動セザル可ラズ然ルニ急呼ノ號報ヲ以テ來集ヲ促スモ故ナク之ニ應ゼザルトキハ之レガ爲メニ軍ノ活動ヲ妨グルコト實ニ大ナリ然ノミナラズ戰時軍中等ニ在リテ不來會者ヲ待チ又ハ搜索スル爲メ遂ニ敵ノ重圍ニ陥ルコトアル可ク或ハ又之レガ爲メニ好時期ニ於テ戰鬪ニ參加スルノ機ヲ失スルコトアル可シ故ニ斯クノ如キ者アルトキハ二年以下ノ禁錮ノ刑ヲ科シテ以テ之ヲ防止スルニアリ

第二百三條 政治ニ關シ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演說若ハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ軍人ノ本分ヲ離レタルヨリ生ズル犯罪ナリ賢クモ帝國軍人

ニ對シテ下シ賜ハレル勅諭ニヨレバ軍人ハ政治ニ拘ラズ世論ニ惑ハズ一途ニ己ガ本分ノ義節ヲ守リ云々トアリ故ニ軍人タルモノハ一旦軍人トナリタル以上ハ只此レ軍紀軍律ノ下ニ在リテ其本分ヲ盡スニ在ルノミ苟クモ政論ニ惑ヒ政治ニ關與スルガ如キハ勅諭ノ精神ニ違反シ其本分ヲ忘レタルモノト云フベシ故ニ軍人タル者深ク之ヲ慎マザル可ラズ依テ此ノ種ノ行爲ヲナシタル者ハ處罰セラレ政治ニ關シトハ國家ノ施政上ニ關スルコトニシテ政治財政外交等ニ嘴ヲ容ルルガ如キヲ云フ之ニ關シ上書シ又ハ建白ヲナシトハ意見ヲ提出スルコトヲ云ヒ其他請願ヲナシトハ憲法第三十條ニ日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規定ニ從ヒ請願ヲナスコトヲ得ト規定セルモノヲ云フ又演說ヲナシトハ公然多數ノ人ノ目

前ニ於テ口頭ニヨリ意思ノ發表ヲナスヲ云フ又文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタルトハ新聞紙ニ依ルト其他印刷物ニ依ルトヲ問ハズ意見ヲ公衆ニ知ラシムルヲ以テ足ル要スルニ之等ノ方法手段ニヨリテ政治上ニ關係スルコトヲ云々シタルモノハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四百四條 服從ノ義務ニ違フベキ事ヲ目的トシテ黨

ヲ結ビタルトキハ首魁ハ六月以上五年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ四年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ結黨シテ服從義務違反ヲナシタル者ノ罪ヲ規定ス賢クモ帝國軍人ニ下シ賜ハリレル勅諭ノ内ニ上官ノ命ヲ承ルコト實ハ直チニ朕ガ命ヲ承ル義ナリト心得自トアリ即チ上官下官ノ關係ハ絶對ニ命令服從ノ關係ナリ斯クノ如ク絶對ニ服從ノ義務アル者ガ之ニ

違反スルコトヲ目的トシテ黨ヲ結ブト云フハ例ヘバ上官ニ對シ不
平ヲ懷キ部下多數黨ヲ結ビテ其命令ニ服從セザラント欲スル結合
團體ヲ云フ此ノ場合ニ於テ首魁ト其他ノ者トヲ別チ首魁ハ六月以
上五年以下ノ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

陸軍刑法施行法

違反スルコトヲ目的トシテ黨ヲ結ブト云フハ例ヘバ上官ニ對シ不
平ヲ懷キ部下多數黨ヲ結ビテ其命令ニ服從セザラント欲スル結合
團體ヲ云フ此ノ場合ニ於テ首魁ト其他ノ者トヲ別チ首魁ハ六月以
上五年以下ノ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

陸軍刑法施行法

陸軍刑法施行法

第一條 本法ニ於テ舊陸軍刑法ト稱スルハ明治十四年第六十九號
布告陸軍刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ陸軍刑法施行前ニ施行
シタル法律及勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ
謂フ

第二條 陸軍刑法施行前ニ舊陸軍刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯
シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ陸軍刑法ニ定メタル主刑ト舊陸
軍刑法又ハ他ノ法律ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ
其ノ輕重ヲ定ム

陸軍刑法ニ定メタル刑 舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑

死刑

死刑

無期懲役

無期徒刑

無期禁錮

無期流刑

有期懲役

有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮

有期禁錮

有期流刑、重懲役、輕懲役、輕禁錮

第三條 刑法施行法第三條ノ規定ハ前條ニ定メタル刑ノ對照ニ之ヲ準用ス

第四條 刑法第六條ニ依リ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、剝官、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加スベキトキト雖之ヲ附加セズ
前項ノ場合ニ於テハ將校ニ非ズシテ官職ヲ有スル者將校ニ在リテハ剝官ヲ附加スル刑ニ該ルトキト雖其官職ヲ失ハズ

第五條 陸軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付陸軍刑法施行ノ前又ハ後ニ確定判決アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

- 一 確定判決アリタル罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖陸軍刑法ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス
- 二 確定裁判アリタル罪ニ陸軍刑法ヲ適用シタルトキト雖モ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第六條 左ニ記載シタル者陸軍刑法施行前更ニ陸軍刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル舊陸軍刑法ノ罪ヲ犯シ陸軍刑法施行後其

罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ陸軍刑法ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊陸軍刑法ニ依リ陸軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

三 舊陸軍刑法ニ依リ陸軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其施行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第七條 陸軍刑法施行前ニ犯シタル一罪ト陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於

テハ陸軍刑法施行前ノ罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スベキトキト雖モ其罪ト陸軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第八條 陸軍刑法施行前ニ犯シタル數罪ト陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ陸軍刑法施行前ノ罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スベキトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト陸軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ陸軍刑法施行前ノ罪ニ陸軍刑法ヲ適用スヘキトキハ其數罪ト陸軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ

關スル規定ヲ適用ス

第九條 陸軍刑法施行後ニ犯レタル陸軍刑法ノ罪ニ付確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テ餘罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スベキトキト雖確定裁判アリタル罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 陸軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付陸軍刑法施行後確定判決アリタル後陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ罪タル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖其罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 陸軍刑法ノ罪ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタ

ル法令ノ罪ト併合罪タルベキ場合ニ於テハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ヲ陸軍刑法ノ罪ト看做シ第三條第五條及第七條乃至第十條ノ規定ヲ適用ス

第十二條 第六條第一項各號ニ記載シタル者陸軍刑法施行後有期懲役ニ該ル陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 陸軍刑法施行後ハ舊陸軍刑法又ハ海陸軍刑律ノ刑ニ處セラレタル者ト雖刑ノ施行前假出獄及時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但シ死刑ニ付テハ陸軍ニ於テ之ヲ施行スル場合ニ限り陸軍刑法ノ規定ヲ準用ス他ノ法律ニ依リ處セラレタル死刑ニ付

亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及明治十五年第四號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スベシ

舊陸軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ陸軍刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條 陸軍刑法施行後ハ他ノ法律ニ依リ處セラレタル罰金又ハ

科料ヲ完納スルコト能ハザル者ノ勞役場ニ留置スル場合ニハ軍

法會議ニ於テハ理事其言渡ヲ爲スベシ

第十五條 陸軍刑法施行後ハ刑法第六條ニ依リ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑ニ處スベキ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定

ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スベシ

第十六條 陸軍刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及幽閉ヲ免セラ

レタル者ニ付テハ陸軍刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル

規定ヲ準用ス

第十七條 剝奪公權停止公權及監視ノ言渡ハ陸軍刑法施行ノ日ヨ

リ其効力ヲ失フ

第十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊陸軍刑法ノ刑名又ハ罪別

ヲ掲ゲタル他ノ法律ノ規定ハ陸軍刑法施行ノ爲變更セララル、コ

トナシ

第十九條 刑法施行法第二十九條及第三十條ノ規定ハ他ノ法律ノ

適用ニ付テハ陸軍刑法ノ罪ニ之ヲ準用ス

第二十條 刑法施行法第三十三條乃至第三十六條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ陸軍刑法ニ定メタル刑又ハ舊陸軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十一條 陸軍刑法ニ依リ六年未滿ノ懲役又ハ一年以上六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊陸軍刑法ノ剝官ヲ附加セラレ又ハ之ヲ附加スベキ刑ニ處セラレタル者ト看做ス舊陸軍刑法ノ剝官ヲ附加スベキ刑ニ處セラレタル者ニ付亦同ジ

第二十二條 他ノ法律中舊陸軍刑法第二十八條第三十條及第三十一條ノ規定アル爲人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケザリシ場合

ニ依テハ舊陸軍刑法第二十八條第三十條及第三十一條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ陸軍刑法施行前ト同一ノ効方ヲ有ス

第二十三條 舊陸軍刑法ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令トノ關係ニ付テハ舊陸軍刑法ヲ舊刑法ト看做シ刑法施行法第二條第三條第五條第六條及第八條乃至第十一條ノ規定ヲ適用ス但シ剝官ニ關シテハ本法第四條ノ例ニ依ル

第二十四條 陸軍治罪法ニ於テ軍人ト稱スルハ陸軍刑法第八條第一號乃至第三號第五號及第九號第一項第一號第二號ニ記載シタル者ヲ謂ヒ海軍々人ト稱スルハ海軍刑法第八條第一號第二號及第九條第一項第一號第二號ニ記載シタル者ヲ謂フ

第二十五條 刑事訴訟法第八條ノ規定ハ軍法會議ニ於テ審判スベ

キ事件ニ之ヲ準用ス

第二十六條 陸軍治罪法中復權及特赦ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第二十七條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムベキ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第二十八條 軍法會議ニ於テハ刑ノ執行猶豫ハ判決ヲ以テ之ヲ爲シ刑ノ言渡ト同時ニ之ヲ言渡スベシ

第二十九條 刑ノ執行猶豫ヲ取消スベキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲナシタル軍法會議刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ヲ管轄スル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所屬部隊ノ軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ取消シ其言渡ヲ爲スベシ

第三十條 前三條ノ判決及其言渡ニ付テハ陸軍治罪法中判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十一條 軍法會議ニ於テハ證人鑑定人及通事ノ日當旅費其他ノ給與ニ關シ刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定ヲ準用ス但シ豫審判事受託判事又ハ裁判所ノ行フベキ職務ハ理事之ヲ行フ

附則

本法ハ陸軍刑法施行ノ日ヨリ之ヲ執行ス

陸軍刑法講義終

明治四十二年七月卅一日印刷
明治四十二年八月二日發行

陸軍刑法講義與付

定價金貳拾五錢

著者 引地 虎 治 郎

東京市麴町區隼町四番地

小 林 又 七

電話番町一六二九番

發行兼
印刷者

陸軍省構内

小 林 又 七 工場

電話新橋九四一番



印刷所

東京市麴町區隼町四番地

發賣所 川流堂 小 林 又 七

電話番町一六二九番
振替貯金東京二九六番

68
543

陸軍懲罰令大意

四六半裁判
定價金拾錢
郵税金貳錢

本書ハ其條文ヲ總振假名付トシ大意ヲ説明スルニ簡ニシテ明而カモ懇切叮嚀ナルヲ以テ
軍人ノ本分ニ背キ軍事ノ定則ニ違ヒ其他軍紀ヲ害シ風俗ヲ紊シタル者云々ノ主文ノ目的
ヲ始メシトシ懲罰令ノ大意ヲ何人ト雖モ直ニ會得スルコトヲ得ルナリ

新舊陸軍懲罰令註解

四六判八十頁
定價金拾五錢
郵税金貳錢

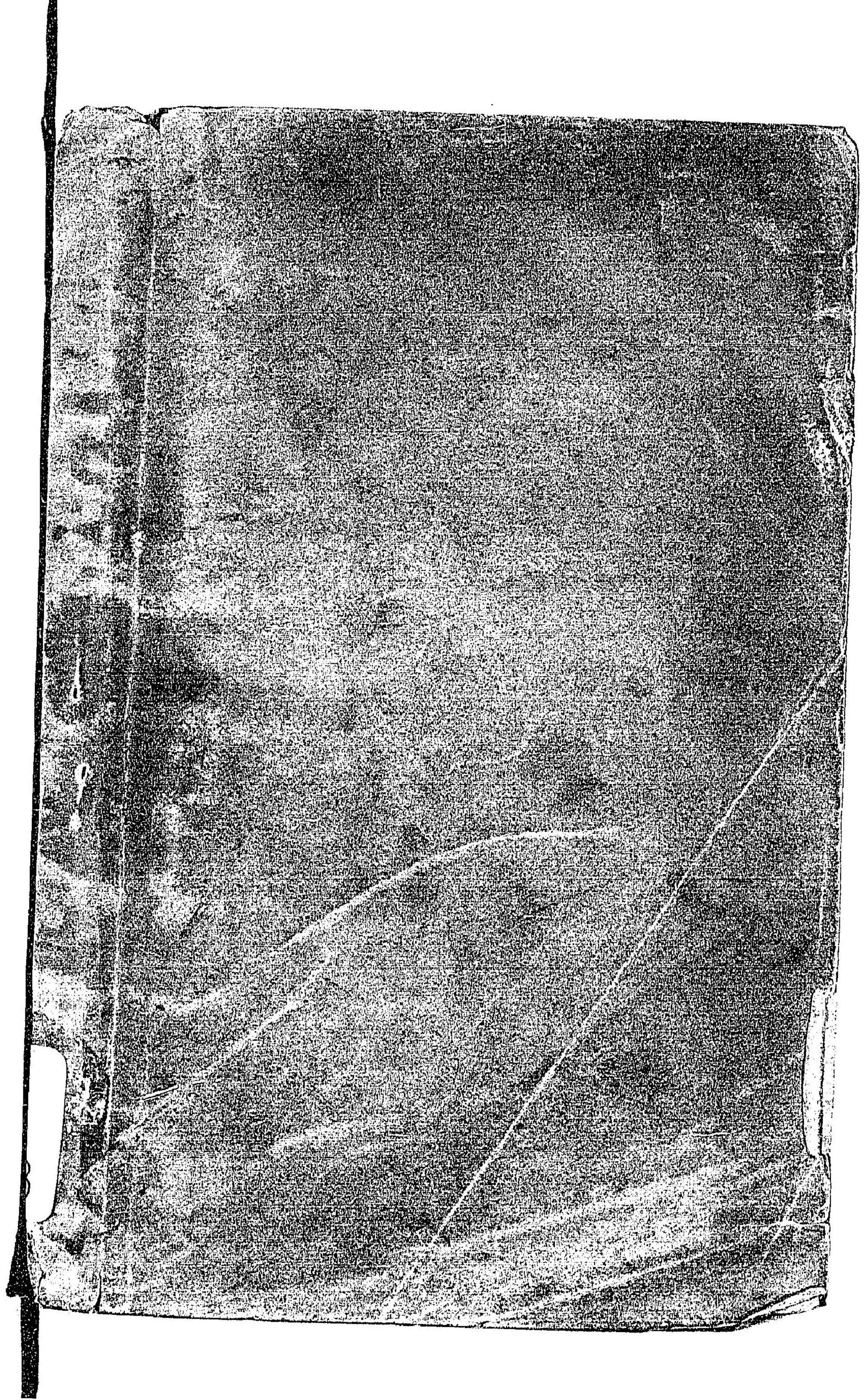
本書ハ著者カ犀利ノ筆、深刻ノ想ニヨリテ通俗的ニ且ツ輕快ニ講義セラレ引例該博、論
旨正確而カモ一糸亂レサル緻密ノ觀察眼ヲ以テ新舊相對照シ縱橫無盡ニ比較研究シタル
モノナレハ本註解並ニ懲罰令大意ノ二冊ヲ座右ニ備ヘンカ、其裨益スル處蓋シ尠少ナラ
サルヘシ

兵用圖書出版元
陸軍省構内印刷所
陸地測量部地圖販賣元

發行所 川流堂 小林又七

東京市麴町區麴町隼町四番地(三宅坂)

電話番町一六二九番
振替貯金東京二九六番



036310-000-9

68-543

改正陸軍刑法講義

引地 虎治郎 / 著

M42

BBQ-0011

